

第1章 試験研究基本計画策定の背景と方針

1 計画策定の背景

- 本県では、「将来にわたる安全で良質な農林水産物の安定的な供給の確保とその適切な消費及び利用」、「森林等の有する多面的機能の適切かつ十分な発揮による安全で良好な生活環境の確保」を基本理念とする「食と緑が支える県民の豊かなくらしづくり条例」を2004年に施行した。
- この条例に基づき、「食と緑の基本計画」を2004年度に策定。以降、5年毎に計画を策定し、食と緑の関する施策を総合的かつ計画的に推進している。
- 「食と緑の基本計画」の実現に向けた農林水産試験研究分野の個別・専門計画として「愛知県農林水産業の試験研究基本計画」を2005年度に策定。以降5年ごとに計画を見直し、農林水産業に関する試験研究を推進している。
- 2025年12月に策定した「食と緑の基本計画2030」の目標達成に向けた試験研究を適切に推進するため、「愛知県農林水産業の試験研究基本計画2030」を策定する。

2 本計画の方針

- 農林水産業の担い手の減少や高齢化による労働力不足、地球温暖化による夏季異常高温や環境負荷低減への対応など、農林水産業における問題は深刻化・多様化している。
- 「食と緑の基本計画2030」では、「生産力の高い農林水産業の実現」及び「環境と調和のとれた持続的な農林水産業の実現」を施策の柱に掲げた。
- 「食と緑の基本計画2030」の基本的な方針に則し、生産性向上と持続性維持の両立に資する農林水産試験研究を推進する必要がある。
- 一方、AI、IoT、ロボットなどをはじめとするスマート農林水産技術の開発及び活用、革新的な技術やアイデアを持つスタートアップ等との連携によるイノベーション創出など、問題解決に向けた新たな可能性が高まっている。
- 本計画では、農林水産の部門毎に「各部門を取り巻く状況」、「試験研究における今後の方向性」、「重点的に取り組む研究テーマ（＝重点研究テーマ）」、「試験研究体系」を整理するとともに、これらの試験研究を推進するための方策を整理した。
- なお、策定にあたっては、部門毎に試験研究の現状を分析するとともに、国の「食料・農業・農村基本計画」、「農林水産研究イノベーション戦略2025」、「森林・林業基本計画」、「水産基本計画」を参考とした。

3 計画期間

〔計画期間〕 2026年度から2030年度まで

〔目標年度〕 2030年度